

事例紹介2

地域団体と連携した活動 熊野川森林組合

熊野川森林組合を中心として、和歌山大学、総合学習研究者、表現教育研究者などが参加し、就学生向けの林業体験・林業学習プログラムを開発し、様々なことを学習する機会を提供することを目指しています。

森林・林業プログラムのねらい

- ・ 森林・森林文化、林業を理解し、森林に暮らし、森林を守る人々からのメッセージを伝え、理解と交流を図るプログラム
- ・ 来訪者、参加者の学習ニーズに応え、学習効果が高く、楽しく、安全で印象深いプログラム
- ・ 地域社会に顕在的な効果を発生させ、地域の自然・景観・住民生活の保全と発展に貢献するプログラム

プログラムの全体の構成

間伐体験を中心に事前学習と現地での2日間の学習及び事後学習からなります。

林業体験（間伐作業）の仕方

- ① 参加者20名が基本単位で、インストラクター1名、アシスタント1名が付きまます。
- ② 料金 参加者1人当たり4,500円 事前学習は1,000円
- ③ 受入可能人数 160名
- ④ 宿泊、移動も含めたトータルパックも可能

受入実績（平成18年度）

回数 延べ10回
参加者 小学生から中高年まで 282名



室内学習



間伐の説明と設計



間伐体験

森林・林業体験テキスト

熊野森林学習推進協会

KAFFE

Kumano Association for Forest & Forestry Education

テキスト

アンケートから

- 小学生 タダ生えているだけと思っていたので、木は生きているということが分かった。
伐るのがかわいそうと思っていたけど、ほったらかしにした方が悪いと分かった。
- 中学生 林業は環境を守る仕事だと知った。
- 高校生 何気なく見ている山にもたくさんの手入れや保護をしていることが分かった。
- 学生 優れた木を育てるには手を加えることが不可欠であることが分かった。
- 一般 「生きもの」を相手に仕事をし、糧を得ることの楽しさ、難しさを体験した。